

2026年度

学校名 南区 永田台小学校

対象学年 4年

① 学習指導案

プログラム	No.5 「地域カルタをつくろう」
単元名 (全70時間)	『かるたで永田台の魅力を伝えよう大作戦』
学習のねらい	かるたを作るために、自分たちが知っていることや知らないこと、伝えたい事を見つめ直していく活動を通して、まちの「こと」やまちを大切にしている「人」、その人の「思い」に気付き、南永田台の町の魅力を発見し、未来の南永田台の担い手としての自覚を育てたい。
学習内容	1 地域かるたや制作したかるたで遊びかるたがもつ魅力について知る。 2 南永田台のまちで活動している人の思いや願いを取材し、町の魅力を知る。 3 まちの魅力を振り返り、かるた制作して改善していく。 4 作ったかるたで交流を繰り返しながらまちの魅力を伝え、一緒に楽しむ。
参考資料 準備品 実施場所等	横浜市金沢区ご当地かるた「カナかる！」

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	<p>○これまでの生活や総合の学習で、学んだことや身につけた力を確認し、今年身につけたい力を出し合い、「地域の人と助け合いたい」「南永田台のまちを知ってほしい」というクラスの思いを決める。</p> <p>○クラスで身につけたい力や思いを実現することができる材について話し合い、「地域かるた」を活動の柱にする事を決める。</p>	<p>● 昨年度までの活動を振り返ることで、これまでに身につけてきた力は一人で身につけてきたわけではなく、クラスの仲間や地域の人、プロの方に支えられて身につけられたものであることを確認する。また、活動には身につけたい力や「思い」があった事をつかめるようにする。</p> <p>● 「みんなで一つの目標に向かって活動できるもの」「何度も試行錯誤して取り組めるもの」「今年身につけたい力や思いを実現できるもの」「地域の人と関わるることができるもの」の視点に絞ることで、子どもたち自身で活動の柱を決めることができるよう促す。</p>	



2	<p>○かるたの歴史や種類を調べ、遊びを通して自分たちが目指すかるたを表現するために必要なことを確認する。</p> <p>○自分たちが考えるテーマでかるたを制作し、保護者の方や友達に遊んでもらいながら改善点を見つける。</p> <p>○かるたは何度も遊んでもらうことで書かれている内容がより伝わることに気付く。</p>	<p>●種類を多く用意することで、地域かるたの特徴や思いに気付けるようにする。</p> <p>●子どもたちが満足いくまでかるたの制作ができるようにする。</p> <p>●かるたはまちの魅力をリズムよく、親しみやすく伝えることができることに気付けるよう、前時で確認したことを振り返ることができるようにする。</p>	<p>☆地域の魅力をかるたで伝えることができる方法を理解する。</p> <p>☆かるたは、何度も遊び、リズムや絵を工夫することで楽しく表現できるものであることに気づいている。</p>
3	<p>○読み札や絵札など、地域ならではのかるたを作る上で必要なことや大切にすべき事を、プロの方から教わる。</p> <p>○南永田台のまちで行われている活動や、それらを支える人の思いや願いを取材し、南永田台のまちの魅力をj知る。</p> <p>○気づいた魅力を全員で確認し、実際にかるたのネタを考える。</p> <p>○考えたネタを基に、読み札と絵札を制作し、交流してアンケートや感想から発見したまちの景色や魅力がより伝わるように改善する。</p>	<p>●地域かるたを制作し、広める活動を行う人の思いや願いに気付けるようにする。</p> <p>●地域と深い関わりをもつ方々を子どもたちと一緒に確認し、出てこない場合はこちらから助言しながら「こと」「人」「思い」に気付くことができるようにする。</p> <p>●全員で取材を行い、振り返ることで一つのかるたに対して共通理解をもって制作に取り組めるようにする。</p> <p>●話し合いの視点を「まちの景色や魅力が伝わっているかどうか」「繰り返し遊びたいと思ったか」のかるたの内容と遊び方の2つの視点で考えることで、子どもたち自身の意見から、課題解決に向かっていくことができるようにする。</p>	<p>☆プロの方の思いや願いに気づこうとしている。</p> <p>☆南永田台のまちについて、人を通してまちの魅力に気づいている。</p> <p>☆調べたことを基にかるたを作っている。</p> <p>☆明確にした視点から、よりよいかるたになるように意見を述べたり自分の考えをまとめたりしようとしている。</p>
4	<p>○完成したまちかるたで、地</p>	<p>●自分たちで交流したい方と連</p>	<p>☆積極的に地域の</p>







	<p>域の方々や学校の人と交流を行う。</p> <p>○自分たちの思いだけでなく、支えてくださる地域の方の思いや願いをかるた遊びの楽しさを通して伝えることができるよう交流する。</p> <p>○自分たちの活動を振り返り、まち（地域）の魅力とは何かを話し合う。</p>	<p>絡を取ることができるように事前に打ち合わせをする。</p> <p>●全員が共通認識で達成できたかがわかるよう、目標達成時の具体的な状況を確認しておく。</p> <p>●これまでの学習を総合的に捉え、まちの「こと」やまちを大切にしている「人」、その人の「思い」の視点から、自分たち考える南永田台のまちの景色や魅力を考えられるよう、掲示物を準備する。</p>	<p>方々や学校の人と交流しようとしている。</p> <p>☆振り返りを通して、次の交流の見直しをもっている。</p> <p>☆誰もが知っている行事だけでなく、自分たちの街には支えている人やその人の思いや願いが込められており、このまちの景色や魅力に気づき、未来に引き継いでいこうという思いをもっている。</p>
--	---	--	---

<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 永田台小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
3	教室	<p>○これまでの生活や総合の学習で、学んだことや身に付けた力を確認し、今年身に付けたい力を出し合い、「地域の人と助け合いたい」「南永田台のまちを知ってほしい」というクラスの目的を決める。</p>		<p>自分たちが身に付けたい力を明確にし、それに合った活動としてかるたを選択し、これからの学習に意欲をもつ姿が見られた。</p>
5	教室	<p>○「カナかる」や「神奈川県民ジモトかるた」など、遊んできたかるたを参考にし、まちの魅力や学校の魅力など、それぞれ</p>		<p>○最低条件だけ統一し、一人ひとりが思い思いのかるたを制作することで、かるたの魅力</p>

		<p>れの目標や思いをもってかるたを作る。</p>		<p>や楽しさに気づくと同時に、ネタの作り方や相手に伝わる絵札を制作する難しさや課題に向き合うことができた。</p>
50	<p>教室</p> <p>地域</p>	<p>○読み札や絵札など、地域ならではのかるたを作る上で必要なことや大切にすべき事を、金沢区ご当地かるたを制作している「カナかる」より教わる。</p> <p>○南永田台の地域に昔から住んでいる人やまちの活動を支えている人に、思いや願いを聞気、読み札や絵札にする。</p>	  	<p>○ご当地かるたの制作者から教わることで、より子どもたちが具体的にかるたの制作で大切にすべきことを理解している様子が見られた。</p> <p>○子どもたちとよく関わる方だけでなく、存在は知っているけれども名前は知らないという方にも取材を行うことで南永田台の歴史や、自分たちが大切な存在だと思われていることに気づいていた。</p>
12	<p>教室</p> <p>地域</p>	<p>○完成したかるたで、これまで取材でお世話になった方や、まちの魅力を知ってほしい学校の児童などと交流し、まちの魅力を伝える。</p>	 	<p>○実際に完成したものを、地域の憩いの場にもっていくことで、子どもたちがまちに対して向き合ってきたことを感じている様子が見られた。</p>

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>1、昨年度の総合でまちの人と関わる子どもたちの姿から、より人の思いや願いに気付くことができるよう、まちの人に昔の南永田台の話だけでなく、まちの人から見た子どもたちの大切さなども話していただくようお願いしたこと。</p> <p>2、とにかくかかるたで遊んだりプロと関わったりすることで、かるたの材そのものの魅力を感じることができるようにしたこと。</p> <p>3、実際のかるたのようにすることや長く残していけるよう、紙の厚さや印刷方法を話し合った。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>1、とにかく時間が必要であること。1度で完成というわけにはいかず、作る→交流する→改善するの流れをかなり繰り返す必要があったため、年間計画に少し乱れがあった。</p> <p>2、取材の振り返り方。全員で同じ取材を聞いているため、取材→振り返ってみんなで確認の流れでおこなっていたが、最終的に全体の取材の総括が弱かったり落ちていなかったりした部分があり、ネタ極めで決め手にかけて難航した場面があった。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>1、南永田台のまちの見方の変容 まちを運営している人の存在や思いを知って、地域の人との関わり方やイベントへの参加の仕方が変わった姿や、もっとまちと関わっていきたいという思いが強くなっていった。</p> <p>2、粘り強さ、チャレンジする気持ちが強くなった 困難なことも友達と協同的に学んだり、地域の人や専門家など様々な人と関わったりしながら、「どうすればできるか」と前向きに考える姿が多く見られるようになった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>最初はまちの魅力を表すものにかかるたがどのように使えるのかあまり見通しをもていなかったが、かるたの「何度も遊んで伝えていく」という特性があることや身近な遊び道具であることから、長く残していける魅力を感じた。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み（児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等）</p> <p>とにかく時間が許す限りは一つひとつに意味をもって決めていくと良いが、何よりも根拠となる部分は全員で共有しておくことが大切であると感じている。</p> <p>「あ」の札だけでもら札の候補の中から絞る必要が出てくる場面があった。この時、全員が納得して選択していくことができるよう、事前に判断基準となるまちの魅力を振り返ることができるような掲示物を用意することや、必ずここだけは抑えるべきポイントを共有しておくことでプレずに進めていくことができるように感じた。</p>